

## 『防災・減災ネットワークづくり推進会議』準備会議事録

- 1 日時：平成 19 年 4 月 18 日(水)14 時～17 時
- 2 場所：神戸国際会館 20 階 (財)神戸国際協力センター会議室
- 3 出席者：伊丹 潔(内閣府政策統括官(防災担当)付企画官)  
小南正雄(兵庫県県土整備部住宅建築局住宅計画課 副課長)  
片瀬範雄((財)神戸市都市整備公社専務理事)  
長手 務((前)神戸市理事(危機管理担当))  
平井健二(神戸市理事(危機管理担当))  
佐藤裕一(京都大学)  
笹山幸俊(NPO法人都市災害に備える技術者の会 理事長)  
山田俊満(同上 副理事長・事務局長)  
太田英将(同上 理事・企画委員会副委員長)  
伊藤東洋雄(同上 (社)日本技術士会近畿支部建設部会副幹事長)
- 4 配布資料：
  - (1) 議事次第(末尾に掲載)
  - (2) 出席者名簿
  - (3) 特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会 概要書
  - (4) ニュースレター 10～12
  - (5) 防災・減災ネットワークづくり推進会議 議事録
  - (6) 第一回震災対策技術展 大阪シンポジウム/セミナー
- 5 議事内容(司会進行 山田俊満副理事長)
  - (1) 開会挨拶：笹山理事長
    - ・先日テレビで放映された近畿 2 府 4 県の知事座談会の内容を受けて、市町のNW作りを進めなければ災害時の対応が遅れる。
    - ・役所のOB達の会がいろいろあるが、定款に災害に関することも付け加えて頂き、各OB会のNWを作る必要がある。
    - ・先日、亀山で地震が発生したが、自治体間の連絡は十分であったか。亀山は 150 年前にも地震を経験しているが、その経験が十分生かされていたか。
    - ・地域の人知っていることでも他所から応援に駆けつけた救援者には知らないことがある。
    - ・OB間、自治体間で普段から情報伝達がさらに円滑になるようにする必要がある。
  - (2) 自己紹介(以下敬称略)

- ・伊丹：4月1日から着任した。
- ・佐藤：西山の代理で出席した。普段、西山の下で研究している。
- ・小南：依藤康正住宅局長の代理で出席した。県庁内の「兵庫県まちづくり建築技術者の会」の事務局を担当している。
- ・長手：3月末で神戸市理事を退任した。5月1日から（財）神戸市防災安全公社理事長に就任予定である。
- ・平井：前消防局長で、4月1日から神戸市理事(危機管理担当)に就任した。幅広い防災の勉強をしたい。その成果を市に持ち帰って水平展開したい。  
（河田先生は防災研究所所長から巨大災害研究センター長にかわられたと聞いている。）
- ・片瀬：神戸市の中での組織「神戸市防災技術者の会（K - T E C）」では、現役、OBを問わず、技術職、事務職を問わずの会員で構成している。1回/月勉強会を開いている。  
各所への支援、出前講義、語り部活動をしている。

(3) 資料(1) - 3 - 1) に従いフリートーキング

- 1) 防災・減災ネットワークづくり推進会議の今後の進め方について  
（山田）これまで NPO が主体となって推進会議を運営してきたが、今後は民間団体や学校も含めて活動の輪を広げていく方向に伴い、核となる自治体が輪番で主体となって運営して戴きたいと考えている。  
（笹山）兵庫県、神戸市で旗を持ってもらい、他の府県（京都、大阪、兵庫、神戸）に交代で担当してもらってはどうか。
- 2) 各行政機関のOBとの連携について  
国、府県、市毎のOBの会がどのように組織され、どういうことに取り組んでいるか先ず調べる必要がある。  
兵庫県、神戸市のOBの会の調査結果を見本として、他の自治体にも広げていく。  
神戸市には人材バンクがあり、把握可能と考えられる。  
兵庫県には【兵庫地域防災サポート隊】というOB組織が最近できた。  
京都市では現職の組織があり、大阪市でもOBの組織があることは聞いている。  
近畿地方整備局にもOB組織がある。（社）近畿建設協会
- 3) OBに期待するところは、実務ではなくアドバイス役である。  
役割分担は、現職はオーダーを出し、OBは実務をする。  
（未経験者の現職にはできることの限界があるので。）

今後、県庁所在地の市にもネットワークに参加していただくよう呼び掛けてはどうか。

OBグループの中に、元局長とか元部課長ではなく、その他の人にも広く参加していただく必要がある。

- 4) 当 NPO は何をやるのか、何ができるのかをもう一度振り返って絞り込む必要がある。
- 5) 中越地震の時の経験で、県と県、市と市は比較的連携が円滑にいったが、県と市との連携は旨く行かなかった経験がある。
- 6) 能登地震の場合、ボランティアセンターを協同で立上げ、ニーズの吸い上げ他仕事の割付等スムーズに行っている。  
救援活動についても、「要請があるまで来ないように」、「援助はものでなくお金で」というように過去の経験から要領を得てきている。
- 7) 内閣府では、災害に対する認識を高めるため、「防災国民運動」を行っている。防災カフェ、サイエンスカフェなどお茶を飲みながらやわらかい雰囲気の中で進めている。  
こういうやり方が今後防災教育の柱となるのではなからうか。
- 8) 京都大学では、大学内部の催し時や大阪市住い情報センターで中学生を対象とした耐震構造の勉強や小学生を対象とした住宅を作る勉強をゲームやクイズ形式で行っている。
- 9) NPO で作成・発行している『ニューズレター』を 2 府 4 県・指定都市に送り、自治体ネットワークづくりの仕事を継続していくことが重要だ。
- 10) すそ野を広げ、専門的技術集団として多数の暗黙知を現役に引き継ぐことが重要だ。今日の会議を通じて発展の芽があると強く感じた。
- 11) 動く（活動する）OB 集団となり、何が得意か、何が出来るかを整理しておくことが必要だ。  
地域の市民と接した時、一般論を言っていたのでは聞いてくれない。そんなことは知っていると言って見向いてくれない。  
市民が聞きたいこと、望んでいることをリストアップし、NPO に何が出来るか、

教科書に書いていないことで出来るメニューを出すと一般の人は頼りにしてくれ、喜んでくれる。

別の機会に他の人からも同様の示唆を受けた。

つまり、何でも出来ますではだめだ。それは何も出来ないことに通じる。

このことが出来ると言うことをはっきりしておく事が重要だ。

12) 能登地震の際、現地に入った。地元の人こんな体験は初めてだと言っていた。

しかし、調査の結果、1993年に地震が発生している。

他所から移り住んだ人が、忘れているのかは別として、語り継ぐこと、風化させないことが防災・減災につながる。

(4) 資料(1) - 3 - 2) 各種の行事や催事への参加について

震災対策セミナー in 神戸 の案内

小・中学校や高校の生徒、児童向けの訓練、指導の取組み紹介

各WG活動の活性化とその経過・成果の伝達の紹介

(5) 各種の委託業務の紹介

以上

(資料 - 1 議事次第)

## 『防災・減災ネットワークづくり推進会議』準備会

- |   |       |       |               |
|---|-------|-------|---------------|
| 1 | 開会の辞  | 笹山理事長 | 14:00 ~ 14:10 |
| 2 | 最近の動き |       | 14:10 ~ 14:20 |
| 3 | 議題    |       | 14:30 ~       |

### 1) 防災・減災ネットワークづくり推進会議の今後の進め方につ

いて(特に新年度に当たって)

名簿の再確認 推進会議再編成

各行政機関のOBの動き(種類、協調の可能性)

責任者(企画を含む)を決めておく

### 2) 各種の行事や催事への参加

震災対策セミナー in 神戸

小・中学校や高校の生徒、児童向けの訓練、指導

各WG活動の活性化とその経過・成果の伝達

### 3) 各種の委託業務

### 4 その他

- |   |    |  |       |
|---|----|--|-------|
| 5 | 閉会 |  | 17:00 |
|---|----|--|-------|